

## 事業計画書

1. 事業名称 家庭用廃食油の回収による地域活性化事業
2. 実施主体
  - 団体名： NPO 法人松戸エコマネー「アウル」の会
  - 事業担当課： 環境計画課 商工観光課
3. 取り組もうとする課題

現状では家庭用廃食油は燃えるゴミとして排出され、市内の焼却施設で処理されている。また地域コミュニティの場であった商店街は少子高齢化や大型店の進出により活力がなくなっている。

また地域通貨「アウル」も会員相互の流通に限られ、地域への展開が不十分である。

そこで家庭用廃食油を回収し、BDFに変換して、この事業に協力した市民にお礼として地域通貨「アウル」を配布し、この運動に賛同した協賛店で、10アウルで10円の割引やサービスを受けられる循環システムを構築する。

それとともに美しいまちづくり、安心、安全なまちづくりに活動しているボランティアにも、ボランティア活動1回で10アウルを配布して、ボランティア活動への感謝の気持ちとやる気を引き起こし、協賛店で同じように割引やサービスが受けられるようにする。

23年度の協働事業として廃食油回収の活動を松戸市全域に展開するため活動中である。

24年度もこの活動の輪をさらに大きくして、松戸市全域に展開していきたい。

### 4. 事業内容及びスケジュール

21年7月よりアウル事務局を回収拠点として毎月2回の定期回収日を定めて、小金原、八ヶ崎地区をモデルに回収実験を開始した。22年2月から北松戸工業団地内の戸田建設のBDF生産プラントが稼働し、廃食油はここでBDFに加工されるようになった。

23年度松戸市協働事業に採択され、新しい廃食油の回収拠点とアウル券が使用できる協賛店の獲得に注力している。23年7月末の回収拠点は12店舗、協賛店は38店舗に達している。

また活動資料類の印刷、ノボリの作成、廃食油回収貯蔵用備品の購入をした。今後この周辺の一般市民へのPRを精力的に実施する予定である。しかしこのような活動を広く市民一般に浸透するにはある程度の時間が必要とし、息の長い取り組みが欠かせない。

広報まつどによる一般市民へのPR活動を繰り返すとともに、商工観光課のバックアップのもとに協賛店の拡充に注力する。

またアウルの会では回収拠点を中心とした町会、自治会へのしくみの説明を今後精力的に進めていく予定である。また松戸市全域にこの回収の輪を広げるには、まだまだ、回収拠点、協賛店の網の目は粗く、さらなる拡大が必要である。特に協賛店を、回収拠点を中心に1ヶ所当たり10店舗以上確保したい。

日程	具体的な取り組み	実施体制、対象者、場所など
4月～6月	回収拠点の拡充呼びかけ (5ヶ所以上) ノボリ、チラシ等活動資料の作成 「広報まつど」によるPR	北小金、馬橋、新松戸地区を重点に  (環境計画課と協働で)
7月～9月	新規協賛店の参加呼びかけ 町会、自治会へのPR	回収拠点を中心にして、 商店街ぐるみの参加を目指す。 (商工観光課と協働で)
24年9月	回収拠点、協賛店、町会との報告 交流会	情報交換、意見要望のキャッチ
10月～12月	新規協賛店の参加呼びかけ 町会、自治会へのPR	回収拠点を中心にして、 商店街ぐるみの参加を目指す。 (商工観光課と協働で)
1月～3月	新規協賛店の参加呼びかけ 町会、自治会へのPR	回収拠点を中心にして、 商店街ぐるみの参加を目指す。 (商工観光課と協働で)
25年2月	回収拠点、協賛店、町会との報告 交流会 「広報まつど」によるPR	情報交換、意見要望のキャッチ  (環境計画課と協働で)

## 5. 事業に期待する成果

22年度の健考館1ヶ所での回収実績は470L、23年9月末の回収実績は450Lである。これは小金原地区の健考館のみの実績であり、新たに加わった回収拠点は23年9月以降に廃食油回収の戦力になってくる。24年度末には、回収拠点を最低でも17ヶ所とし、その回収拠点を中心に1ヶ所につき10店舗以上の協賛店を確保する。また周辺の町会、自治会へのしくみのPRを徹底して、家庭用廃食油回収のしくみを定着させたい。(回収拠点1ヶ所当たりの廃食油回収量を500L/年を目標とする。)

## 6. 協働の意義

21年7月より、小金原地区を中心に、健考館(アウル事務局)にて、回収を進めてきたが最近になってこの活動が少しずつ浸透してリピーターも増えてきた。やはり息の長い取り組みを痛感している。このような活動を松戸市民に広く浸透させるには「アウル」の会だけでは限界がある。

「もったいない運動」の重点事業として家庭の廃食油の回収リサイクル事業が認定され、地域通貨「アウル」がこの推進ツールとされている。

さらに松戸市の関係課との協働事業として推進出来れば、一般市民、ボランティア団体、商店、商店街へのPR活動が容易になり信頼が得られる。

また廃食油の回収が軌道に乗れば、松戸市が推進している減CO2活動にも寄与する事となる。

## 7. 事業実施の役割分担

### ■ 提案者の役割

#### 家庭用廃食油回収拠点の拡大

- ① 食油回収拠点として協力してくれる企業・商店、商店街、町会等の発掘
- ② 廃食油回収拠点としての用具類の整備（回収タンク、ノボリ・チラシなど PR 用具）

#### アウル通貨が使える協賛商店の拡大

#### ボランティア団体の獲得

スクールガード、環境美化、まちづくり等のボランティア団体に参加を求める。

### ■ 担当課の役割

#### 環境計画課

「広報まつど」による周期的な広報活動により、廃食油回収システムの PR を図り、松戸市全域にこの運動を拡大させて、多くの市民に参加を呼びかける援助する。

#### 商工観光課

回収拠点の周辺の商店、商店街に対し、本事業の趣旨を理解していただき、アウル通貨の使用が出来る協賛店への参加促進に向けた PR をバックアップする。

## 8. 将来の展開

### ① 廃食油回収事業の松戸全市への展開

企業、商店、町会・自治会などの賛同を得て、回収拠点を松戸市全市に展開していく。

なお廃食油は戸田建設の BDF プラントで再生されて、構内の重機類の燃料として使用されている。

これにより市民の環境に対する意識を変えて、省資源、省エネルギー社会の構築を目指す。

### ② 地域商店街の活性化

協賛店の増加により、地域商店街の活性化と、市民との密接な交流が期待できる。

更に市民の協賛店への信頼感が高まり、地域商店街活性化にも資することができる。

### ③ 地域通貨「アウル」の拡大

「松戸市安全で快適なまちづくり条例」に関するボランティア団体の協力を得て「アウル」の循環の輪を広めていきたい。そのため松戸市全域の防犯パトロール、スクールガードや公園、河川、駅前等の清掃ボランティアにも「アウル」の配布を拡大していきたい。

家庭用廃食油回収を核にして、多くの市民の参加を得て、地域通貨「アウル」の循環を拡大することにより、市民と商店、ボランティアの連携が深まり、地域への愛着・貢献が図られ、明るい住みよい循環型の松戸市が出来るものとする。

## 事業の予算計画

【社会資源持ち寄り（収入）】

（単位：円）

	（自己資金）	金 額	積算内訳
	提案者		80,000 円
		65,000 円	アウルの会の事業費から
自己資金合計（a）		145,000 円	
労力換算額計（b）		600,000 円	労力換算計算書のとおり
市	負担金申請額（c）	500,000 円	/
資金合計額（d）（a+c）		645,000 円	事業費（g）と同額

【負担金申請額（c）チェック項目】

1. 対象となる経費（e）欄の90%以内
2. 1事業あたり50万円以内
3. 自己資金（a）欄に労力換算額（b）欄を加えた額以下であること。

【事業費の積算（支出）】

	項 目	金 額	積算内訳
負担金の交付対象経費	廃食用油回収拠点用備品	75,000	回収拠点5ヶ所として、のぼり、ポール、スタンド等5セット
	活動資料類の作成 （廃食用油回収仕組の説明）	510,000 円 (140,000)	PR ちらし（7×20,000 枚）、 掲示板用（60×1,000 枚×2 回）
	（廃食用油回収仕組の説明）	(120,000)	町会回覧、掲示用（100×500 枚）
	（回収拠点の紹介）	(50,000)	町会回覧、掲示用（100×500 枚）
	（協賛店の紹介）	(50,000)	一般用（10×15,000 枚）
	（回収拠点、協賛店の紹介）	(150,000)	
	調査交流費	20,000	会場費ほか
	対象となる経費合計額（e）	605,000 円	/
その他経費	スタッフ交通費	40,000 円	500 円×80 人分
	その他経費合計額（f）	40,000 円	
事業費（g）（e+f）		645,000 円	収入合計額（d）と同額

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にして下さい。

# 労力換算計算書

(単位：円)

	項 目	換算額	積算内訳
労力換算額	活動計画		人数×時間×回数×500円
	健考館での回収(2回/月)	/144,000円	3名×4hr×24回×500
	全回収拠点巡回(1回/月)	/240,000円	2名×20hr×12回×500
	活動資料原稿作成	/16,000円	2名×8hr×2回×500
	商店、町会、ボランティアとの折衝	/200,000円	2名×20hr×10回×500
	合計(b)	600,000円 /	